

# 県立赤城公園活性化事業について

群馬県 環境森林部 自然環境課



鳥居峠から臨む覚満淵と大沼



# 県立赤城公園活性化事業について

## 目次

- ① 県立赤城公園とは
- ② 活性化させる目的と背景
- ③ 活性化に向けた基本構想
- ④ 整備する2つの拠点施設
- ⑤ 意見交換

# ① 県立赤城公園とは

標高1,828メートル、伸びやかな裾野を持つ赤城山（あかぎやま）は、日本百名山の一つで群馬県の象徴ともいえる名山。赤城山は深い森と大小の湖沼、湿原を抱え、そこには多様な動植物が生息している。特に多くの観光客を集める山頂部は、多彩な自然環境を有しており、火口原湖の大沼（おの）、爆裂火口の跡にできた火口湖の小沼（この）、かつての古大沼湖の一部が湿原化した覚満淵（かくまんぶち）と、いくつもの外輪山が変化に富んだ美しさを見せている。

県立赤城公園は、この赤城山頂部の豊かな大自然の中に広がる、およそ1,290ヘクタールの県立公園。

公園内にはビジターセンター、キャンプ場、休憩舎や牧場などの施設があり、年間50万人ほどの利用者が訪れている。

また、大沼・小沼・覚満淵周辺や、地蔵岳・黒檜山（日本百名山）には、関東ふれあいの道をはじめ、登山道や散策道が整備されており、四季それぞれの自然の美しさを満喫できるようになっている。



冬季は氷上ワカサギ釣りが有名



6月はレンゲツツジが広がる



上毛かるたにも描かれる

左・右上提供：前橋観光コンベンション協会  
右下参考：上毛かるた



## 基礎情報

設立 昭和10年2月8日  
面積 1,290ha  
標高 1,828m (赤城山・黒檜山)

# ② 活性化させる目的と背景

## 県立赤城公園の現状と課題

①利用スタイルの多様化  
→多様化するニーズへの対応の遅れ



②地元事業者の高齢化と後継者不足  
→公園運営・管理の人員不足  
・新たな担い手の確保



③老朽化県有施設の維持管理費用増大  
→県有施設の必要性の再確認と  
維持管理財源の確保



引用: \*1 NPO法人赤城自然塾 \*2(株)スノーピーク \*3 須田工業

◆県立赤城公園の歳入・歳出の実績 (令和元年度) 年間利用者: 約55万人 (単位: 千円)



### ◆主な費用内容

|     |   |
|-----|---|
| 人件費 | 公園管理員   |
| 委託費 | ビジターセンター管理<br>公衆トイレの清掃<br>公園内の清掃、草刈りなど                    |
| 工事費 | 登山道、木道などの改修<br>公衆トイレの改修<br>災害対応 (土砂撤去、施設復旧など)<br>施設の改修 など |

地元住民が担当

### ◆課題

- ①マンパワーの確保
  - ②財源の確保
- ⇒課題解決に向けた取組が必要

## 持続可能に向けた新たな取組

- ①未利用の土地・空間を有効利用  
ビジターセンター食堂スペースにカフェを開設  
⇒条例による使用料納付により収入が増える  
今後、民間事業者への積極的な貸付を推進する
- ②新たな担い手の確保  
県立赤城公園への新たな民間事業者を募集  
⇒民間事業者の進出によりマンパワーが増える  
地元活動 (清掃等) に積極的に参加してもらう

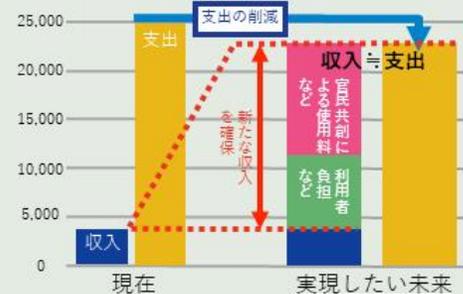


## 官民共創による持続可能な公園管理・運営体制

県立公園のポテンシャルを最大活用し、  
新たな地域顧客を増やすための魅力を創出し、  
自律性ある持続可能な公園管理・運営の実現を目指す。



<収入と支出の改善目標イメージ>



## ② 活性化させる目的と背景

### ニーズ分析

#### 基本構想に求められる機能

情報発信・観光案内機能の整備

体験を取りまとめる団体や事業者が  
参画しやすい仕組みの整備

体験型宿泊機能の整備

自然環境の保全及び景観形成手法の整備

#### 地元住民や自然環境団体の想い

##### 第1回あかぎ会議

日付：2021年11月8日  
14：30～17：50  
場所：ヒュッテハヤシカフェ  
参加：地元の住民や事業者27名



本事業やスローシティ構想についての説明を実施した後、赤城公園の魅力について、地元住民の皆さまとワークショップを実施

▶赤城公園の魅力や特色を整理

##### 第2回あかぎ会議

日付：2021年12月20日  
12：30～15：30  
場所：前橋市赤城自然少年の家  
参加：地元の住民や事業者27名



第1回会議結果を踏まえた構想進捗の説明とテントサウナ体験を実施後、ワークショップにて滞在に関する提案方法を検討

▶滞在時間延長のための具体案を検討

##### 第1回あかぎ環境会議

日付：2022年5月12日  
①9：00～12：00  
②13：00～16：00  
場所：赤城公園ビジターセンター  
参加：自然環境団体：8団体18名



・基本構想についての意見交換  
・各団体ごとに赤城公園のあるべき姿への意見や理由を記入いただき、マップを作成

▶公園内のエリア分けの必要性を再確認

- ▶遊休エリアの活性化、ビジターセンターエリアの再整備、また遊休資産を活用した新たな目的を創出する施設整備が求められる
- ▶既に開発されているエリアでの施設整備を検討

# ③ 活性化に向けた基本構想

## コンセプト

生きがいやWell-Beingなど、これからの共感価値を取り込み自然環境の保全・保護に配慮した利活用を図ることで、公園の魅力を引き出し、県民の関心を高める施策”を構築する

#Well-Being

#生きがい

#Green&Relax

## Akagi Well-Ground

赤城ウェルグラウンド

～自然を中心として、幅広い年齢層が集まり、地域の魅力を高める場を創造～

### 管理・運営ほか（ソフト施策）

- I 循環型の自立生活圏を創出
  - 地域全体の回遊による地域経済の基盤化
  - Well-beingな持続可能コミュニティの可視化
- II スマート文化経済圏の創造
  - データ連携から地域文脈を活かしたマーケティングによる活性化
- III 官民共創プラットフォームの構築
  - 新たな民間事業者が参画しやすい観光整備
  - 住む人+働く人（民間事業者含む）による新たな枠組みの構築
  - 住む人+働く人による地域マイスター制度
  - 住む人+働く人による滞在方法を提案する仕組み

### 施設整備（ハード施策）

- i 遊休エリア（文教施設地区・厚生施設団地など）の活性化
  - 体験型宿泊機能の整備（キャンプ場など）
- ii ビジターセンターの再整備
  - 情報発信・観光案内機能を強化し地域周遊の窓口

▶ソフト・ハード両軸から実現する  
持続型循環の創出

## エリアマップ



▶地域全体の回遊による地域経済の基盤化

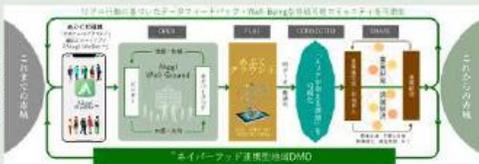
# ③ 活性化に向けた基本構想

## ソフト施策

### 循環型の自立生活圏を創出

#### ▶ Well-beingな持続可能コミュニティの可視化

地域の知見を活かしコミュニティを醸成、地域に潜在するポテンシャルを引き出し、新たな出会いや就業機会を生み出していく



### スマート文化経済圏の創出

#### ▶ データ連携から地域文脈を活かしたマーケティングによる活性化

訪れる人と地域を繋ぐデジタルチャネルを整備し、データに基づいた滞在体験の提案を可能に



### 官民共創プラットフォームの構築

#### ▶ 新たな民間事業者が参画しやすい環境整備

住む人+働く人（民間事業者含む）による新たな枠組みの構築



#### ▶ 住む人+働く人による地域マイスター制度

#### ▶ 住む人+働く人による滞在方法を提案する仕組み

#### 施設管理を通して連携を具体化



## ハード施策

### i. 体験宿泊機能の整備

#### ▶ 遊休エリア（文教施設地区・厚生施設団地など）の活性化



#### 赤城公園エリアで、自然に囲まれた大沼に面する特別な湖畔キャンプフィールド

赤城大沼のすばらしさを感じられる特別な湖畔サイトを整備。野遊び体験を通じて、山頂エリア北西部の集客拠点を構築。リピーターの多い安心感のある場所を創出する。

#### 整備概要

- キャンプサイト（100サイト以上）：民営有料で管理人常駐
- 管理棟：宿泊受付、アウトドア用品・食料品・レンタル品などを提供
- サニタリー棟：炊事場、トイレ、シャワー等を完備
- 電源設備とWi-Fi環境を利用した多様なデジタルコンテンツ
- 施設規模に合わせた駐車場

#### 整備想定エリア

県立赤城公園キャンプ場、文教施設地区・厚生施設団地など

### ii. 情報発信・観光案内機能を強化し地域周遊の窓口

#### ▶ ビジターセンターエリアの再整備



#### 「買う・遊ぶ・食べる・泊まる」が揃う赤城公園エリアのアウトサイドベース地域店舗や住民を巻き込む拠点施設

赤城公園のコミュニティ基盤となる拠点施設。アクティビティ、イベントを通じて、赤城公園エリア全体の回遊性に寄与。観光案内機能・飲食機能も内包し、強い発信性・集客性を生み出していく。

#### 整備概要

- 観光案内やアクティビティ体験などの総合受付窓口の開設
- 赤城地域の地場産品を備えたショップ・カフェ
- Wi-Fi環境を整えたコワーキングスペース
- 快適に利用できるトイレ（男性・女性・バリアフリー）
- 新たな目的を創出する温浴施設や体験型宿泊施設なども検討

#### 整備想定エリア

・ 県立赤城公園ビジターセンター、テニスコート跡地、第三スキー場など

# ④ 整備する 2 つの拠点施設

## 体験宿泊施設の整備

赤城公園エリアで、  
自然に囲まれた大沼に面する  
特別な湖畔キャンプフィールド。

# Ono Camping field

大沼キャンピングフィールド

赤城大沼のすばらしさを感じられる特別な湖畔キャンプサイトを整備。野遊び体験を通じて、山頂エリア北西部の集客拠点を構築。リピーターの多い安心感のある場所を創出する。

### 整備概要

- キャンプサイト（100サイト以上）：民営有料で管理人常駐
- 管理棟：宿泊受付、アウトドア用品・食料品・レンタル品などを提供
- サニタリー棟：炊事場、トイレ、シャワー等を完備
- 電源設備とWi-Fi環境を利用した多様なデジタルコンテンツ
- 施設規模に合わせた駐車場

### 整備想定エリア

県立赤城公園キャンプ場、文教施設地区・厚生施設団地など



# ④ 整備する 2 つの拠点施設



情報発信・観光案内機能を強化し地域周遊の窓口

「買う・遊ぶ・食べる・泊まる」が揃う  
赤城公園エリアのアウトサイドベース。  
地域店舗や住民を巻き込む拠点施設。

## Akagi Land Station

赤城ランドステーション

赤城公園のコミュニティ基盤となる拠点施設。さまざまなアクティビティ、イベントを通じて、大沼小沼にとどまらず、赤城公園エリア全体の回遊性に寄与。観光案内機能・飲食機能も内包し、強い発信性・集客性を生み出していく。

### 整備概要

- 観光案内やアクティビティ体験などの総合受付窓口の開設
- 赤城地域の地場産品を備えたショップ・カフェ
- Wi-Fi環境を整えたコワーキングスペース
- 快適に利用できるトイレ（男性・女性・バリアフリー）
- 新たな目的を創出する温浴施設や体験型宿泊施設なども検討

### 整備想定エリア

- ・県立赤城公園ビジターセンター
- ・テニスコート跡地、赤城山第三スキー場など



## ⑤ 意見交換

### 【まとめ】

- ◆ 策定した「県立赤城公園の活性化に向けた基本構想」において、赤城公園に求められる機能やコンセプトを踏まえ、「大沼キャンピングフィールド」及び「赤城ランドステーション」を整備していく。
- ◆ 現状の「公設公営方式」を、国の方針を捉え「公設民営方式」での管理・運営によって、民間事業者の豊富な資金力や技術的ノウハウを活用し、赤城公園が有するポテンシャルを最大限引き出す。

### 【意見交換の論点】

- ① 整備する2つの拠点施設の望ましい管理・運営手法
- ② 民間事業者が参画を検討するに当たっての希望事項 など